

清水探訪

第6回

【伊豆神社の清水】

(仙南地区 境田)

国道13号線野荒町中丁の、信号機のある交差点から西に向かって600メートルほどのところに伊豆神社があります。この神社の境内の北側、西側を囲むように清水が湧いていて、地元の方々から「オンドのシズ（お堂の清水）」と呼び親しまれているのが伊豆神社の清水です。水深は約30センチメートルで、特に北側で活発に湧いている様子を見ることができます。

この清水は道路改良などでだいぶ小さくなったようですが、以前は500平方メートルを超える広さで水田耕作の貴重な水源でした。境田一郷の総鎮守とされる伊豆神社は、飯詰の野守城五代目城主である久米又左衛門行重が享保13（1728）年に創建したとされていますが、当時から多くの水量を誇り、地域に豊かな稔りをもたらしていたことがうかがえます。

長年、伊豆神社の責任役をされてきた鈴屋昭治さん（上中野町）によると、神社は杉木立に囲まれ、清水の水面を渡る風も涼しかったことから、子どもたちの絶好の勉強場所だったとのこと。「夏休みになれば、地区の子どもはみんな神社に集まり、勉強したり清水で水浴びをしたりして過ごした。神社周辺は子どもの頃の思い出が詰まった場所だ」と当時の思い出を交えて話してくれました。



伊豆神社の祭典は毎年8月15日に行われます。お祭りの前に境内の清掃が行われますが、清水の清掃は境内の清掃とは別の日に半日かけて行われます。そこに、神社と清水に子どもの頃から親しんできた境田地区の方々の思いが垣間見える気がしました。

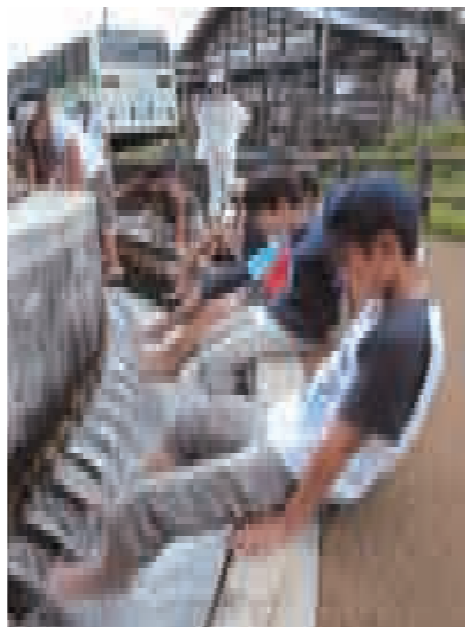
《清水は、地域みんなのもので。保存・保全に地域みなさんのご協力を》

問い合わせ ● 町商工観光交流課 観光班 ☎0187-84-4909

美郷町水環境学習会で 土地改良区施設を見学しました

8月4日に美郷町土地改良区連絡協議会（鈴木敏夫会長）主催の美郷町水環境学習会が開かれ、町内の小学生22人が参加しました。

子どもたちは六郷湧水群、千畑ほ場整備事業地区や金沢ダムなどの土地改良施設を見学しました。ほ場整備の工事の様子を見学した子どもたちは「工事をするとき大変なことはなんですか」「面積はどれくらいですか」と積極的に質問をしていました。学習会の最後には関田円形分水工を見学しました。関田円形分水工は農業用水をいくつかの水路に分配するための施設で、昭和7年に建設された秋田県第一号の分水工です。ここから送られた水は東京ドーム190個分の面積の畑や田んぼで使われています。子どもたちは照りつける太陽の下、流れる水に手や足をつけながら土地改良区職員の方の説明を聞いていました。



10月30日(土) 第3回「水の郷シンポジウム」に C.W.ニコルさんがやってくる。

私たちの生命、暮らしになくてはならない水。地域の文化や産業など、すべての源である水への関心を高め、水環境保全への取り組みにつなげることを目的とした「水の郷シンポジウム」に、C.W.ニコル氏が来てお話しをしてくれることになりました。森と水の関わりだけでなく、森と人との関わりにも触れ、心が優しくなる内容となっています。たくさんの方々のご来場をお待ちしています。

C.W.ニコル氏（作家、環境保護活動家、探検家）

1940年7月17日、英国ウェールズ生まれ。17才でカナダへ渡り、その後、カナダ水産調査局北極生物研究所の技官として、海洋哺乳類の調査研究にあたる。1967年より2年間、エチオピア帝国政府野生動物保護省の猟区主任管理官に就任。シミエン山岳国立公園を創設し公園長を務める。1972年よりカナダ水産調査局淡水研究所の主任技官、また環境保護局の環境問題緊急対策官として、石油、化学薬品の流出事故などの処理にあたる。1980年長野県黒姫に居を定め、以降、執筆活動をしている。1995年7月日本国籍を取得。2002年自ら荒れた森を購入し、生態系の復活を試みる作業を20年間行い、財団法人C・W・ニコル・アフンの森財団を設立。2005年英国エリザベス女王陛下より名誉大英勲章を賜る。

開催日 ● 10月30日(土)
(美郷フェスタ開催日)

場 所 ● 美郷町公民館
演 題 ● 「心に木を植える」

※詳細は10月号の広報美郷でお知らせします。

第4回水環境マイスター養成講座の 受講生を募集します。

今年度の講座は今回が最後の開催です。今回は、地下水を実際に作ってみようという壮大なスケールでの開催となっていますので、向学心にあふれている皆さんの参加をお待ちしています。

日 時 ● 10月9日(土) 午後1時30分～午後4時30分
場 所 ● 中央ふれあい館（旧六郷清水苑）ホール
テ ー マ ● 「地下水を作ってみよう」

講師：秋田大学工学資源学研究所
地球資源学専攻助教授 網田和宏氏

申込方法 ● 10月1日(金)まで電話でお申し込みください。
申込・問 ● 町住民生活課 環境安全班 ☎0187-84-4903

水環境マイスター養成講座

現在16名の参加者が水環境保全活動に
必要な知識を学んでいます

6月26日と7月31日に地域の水環境保全のリーダーとなる人材を育成する「水環境マイスター養成講座」が、環境カウンセラーの津村守先生を講師にお迎えして行われました。参加した受講生の皆さんはどんなことを学んだのでしょうか。津村先生の講座の様子をご紹介します。

水を学ぼう（第1回 6月26日）

水には、量や流れの方向、pH(水素イオン濃度指数(※1))、COD(化学的酸素要求量(※2))・BOD(生物学的酸素要求量)、軟水が硬水かなど様々な指標があります。講義ではこれらの指標を検出する方法について説明が行われ、引き続き検査用品を使用して、穀物酢や日本酒、紅しょうがの汁などのpHと川や水田から汲み上げた水のCODの計測実験を行いました。その後、本堂城回地区の湧水群に向かい、現地

で水質調査を行いました。水質調査の結果、飲用可能と分かった清水では汲み上げた水を自分の口を含む参加者もあり、水に関する知識を深めた様子でした。



(※1)酸・アルカリの強さを表す数値
(※2)水中の被酸化性物質を酸化するために必要な酸素量。数値が高いほど有機物が多い。

おいしい水と飲める水（第2回 7月31日）

水の中にはたくさんの成分が溶け込んでいます。水のおいしさはカルシウムやマグネシウムなどの化合物の量や硬度、水温などによって決まると言われています。特に水温は10℃～15℃が人にもっとも清涼感のあるおいしさを感じさせると言われています。講義では、おいしい水の条件について説明が行われ、引き続き町内の水道など17地点から採取した水を使って飲み比べと水質調査を行いました。受講者の皆さんが飲み比べたところ、仙南東部浄水場の水が一番おいしいという結果が出ました。

その後、六郷東根浄水場を訪れ、水が汲み上げられてから配水されるまでの仕組みを学びました。受講者の皆さんは町職員から、ろ過装置や制御盤の説明を受けると、興味深そうに機器に目を向けていました。

